

2017年（平成29年） 11月24日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

11/9～11/15のNYMEX・WTIは、55.33～57.17ドルの範囲でやや軟化した。

11月16日は、前日のEIA週報で米国原油在庫が予想外の積み増し、9月の米国原油生産量が日量964.5万バレルと記録的水準となったことから、シェール増産への警戒感が出て3日続落した。12月限の終値は前日比0.19ドル安の55.14ドルだった。

週末17日は、前日サウジのファリハ・エネルギー相が石油市場は来年3月末時点まで供給過剰が続くとして協調減産延長を示唆、ユーロ高・ドル安の進行による原油先物の割安感もあり、4日振りに反発した。また、ペカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数は738基と前週比横ばいであった。12月限の終値は前日比1.41ドル高の56.55ドルだった。

週明け20日は、ドル高・ユーロ安の進行に伴う割高感に押され、また、利食い売りも一部で台頭し、反落した。12月限の終値は前週末比0.46ドル安の56.09ドルだった。

21日は、30日にOPEC総会、OPEC・非OPEC合同会議の開催を控え、協調減産延長への期待感、また、サウスダコタ州で発生したパイプライン事故による供給懸念から、反発した。この日から中心限月となった1月限の終値は前日比0.41ドル高の56.83ドルだった。

22日は、キストーンパイプラインの一部操業停止によるカナダ産原油の供給削減見通しから続伸したが、EIAの米国在庫週報で、米国原油在庫の取り崩し量が少なかったことで上げ幅は圧縮された。1月限の終値は前日比1.19ドル高の58.02ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(12

月渡し)は、前週59.80～61.90ドルの範囲でやや軟化し推移した。11月16日60.30ドル、17日59.60ドル、20日60.80ドル、21日60.30ドル、22日60.90ドルで推移した。

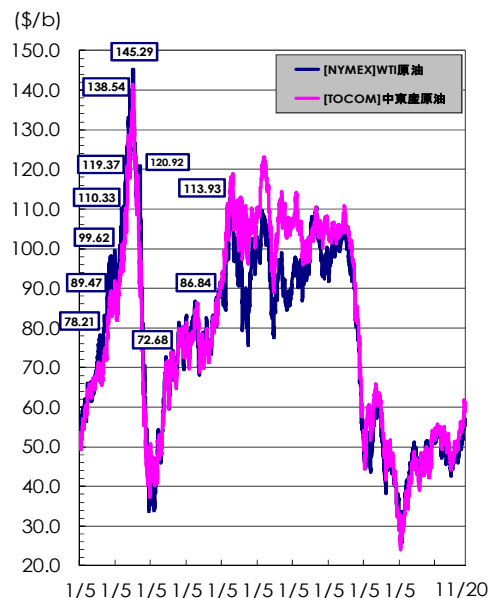
為替は、前週113.39～114.06円の範囲で推移した。11月16日113.07円、17日112.97円、20日112.19円、21日112.66円、15日112.38円でやや円高に推移した。

財務省が20日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、10月下旬の原油輸入平均CIF価格は、39,274円/klとなり、前旬を380円上回った。ドル建てでは55.52ドルで前旬比0.63ドル高。為替レートは1ドル/112.47円。また、同日発表の貿易統計(速報・月間ベース)によると、10月の原油輸入平均CIF価格は、38,711円/klとなり、前月を3,239円上回った。ドル建てでは54.75ドルで前月比3.24ドル高。為替レートは1ドル/112.40円。

主要元売会社の11月第4週(従来の表記「11月第5週」から変更致しました)に適用する卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに、各社0.5～1.0円の値下げとなった。原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油調達コストは値下がりました。

そのような中で、11月20日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.8円の値上がり、軽油は同1.8円の値上がり、灯油も同1.5円の値上がりだった。ガソリンは10週連続の値上がり、軽油も10週連続の値上がり、灯油は10週連続(18ベース)の値上がりだった。この週(11月第3週、従来の表記「11月第4週」から変更致しました)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに1.5～2.0円の値上げだった。

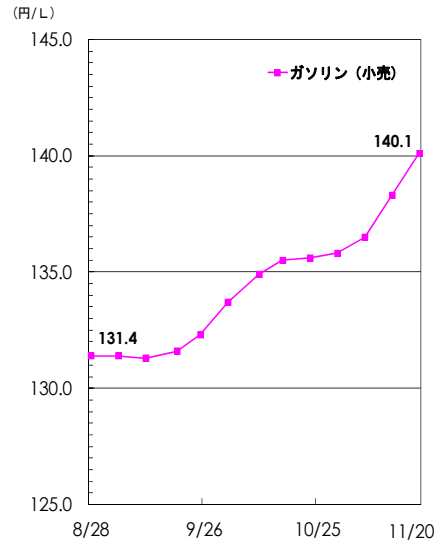
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/12～11/18	3,637 ▲121	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	92.9 ▲3.1	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	11/18	13,563 ▲468	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/20	60.35 ▼-0.84	▲15.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/20	56.09 ▼-0.67	▲8.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月下旬	55.52 ▲0.63	▲10.22
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	39,274 ▲380	▲10,093
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.47 ▲0.18	▼-10.05
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/20	113.19 ▲1.49	▼-1.24



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/12 ~ 11/18	1,037 ▼ -59 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	967 ▼ -12 ▼	▼ -	
	輸出	"	12 ▼ -48 ▼	▼ -	
	在庫	11/18	1,699 ▲ 58 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/14 ~ 11/20	59.8 ▲ 1.1 ▲	▲ 18.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/14 ~ 11/20	58.5 ▼ -0.7 ▲	▲ 16.6
		(TOCOM/中部)	11/20	60.0 ▲ 1.3 ▲	▲ 16.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/20	140.1 ▲ 1.8 ▲	▲ 14.3	

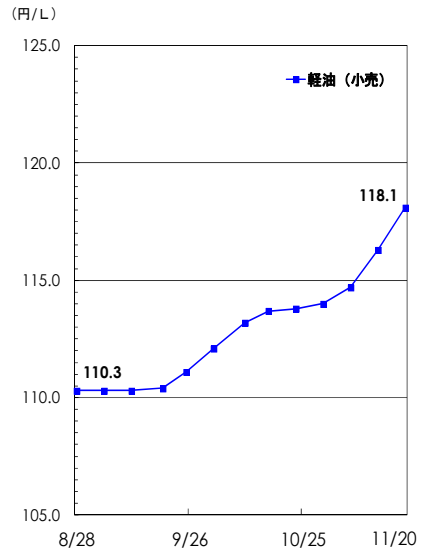
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

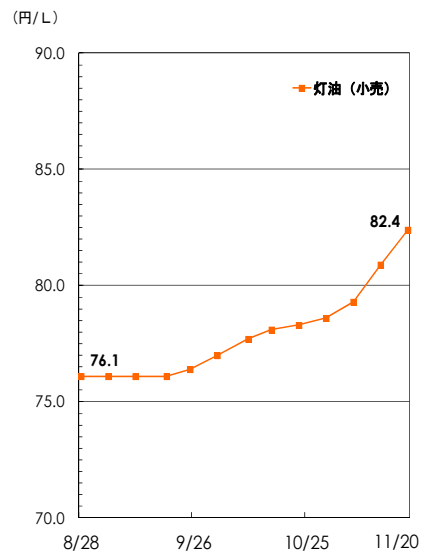
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/12 ~ 11/18	840 ▲ 95 ▼	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	652 ▼ -33 ▼	▼ -	
	輸出	"	159 ▲ 69 ▼	▼ -	
	在庫	11/18	1,389 ▲ 28 ▼	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/14 ~ 11/20	59.3 ▲ 1.6 ▲	▲ 16.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/14 ~ 11/20	55.0 → 0.0 ▲	▲ 12.0
		(TOCOM/中部)	11/20	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/20	118.1 ▲ 1.8 ▲	▲ 13.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/12 ~ 11/18	343 ▲ 6 ▲	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	200 ▼ -189 ▼	▼ -	
	輸出	"	0 → 0 →	→ -	
	在庫	11/18	2,662 ▲ 143 ▲	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/14 ~ 11/20	60.9 ▲ 1.2 ▲	▲ 15.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/14 ~ 11/20	59.3 ▼ -0.6 ▲	▲ 13.5
		(TOCOM/中部)	11/20	61.0 ▲ 0.4 ▲	▲ 14.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/20	82.4 ▲ 1.5 ▲	▲ 16.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月22日のNYMEX市場WTI原油は、サウスダコタ州で発生したキイストーンパイプラインの漏えい事故で、カナダ産原油の送油量が11月末まで15%以下に削減されるとの見通しに加えて、ドル安・ユーロ高に伴う原油先物の割安感から続伸し、中心弦月の終値ベースで2015年6月末以来の高値を記録した。ただ、この日の米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比190万バレル減と取り崩し規模が限定的であったことが、上げ幅を圧縮した。1月限の終値は前日比1.19ドル高の58.02ドル、2月限の終値は前日比1.10ドル安の58.02ドルだった。

EIAによると、11月20日時点のガソリンの小売価格は前週比2.4セント値下がり1ガロン2.568ドル(76.7円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.3セント値下がり2.912ドル(87.0円/ℓ)。ガソリンは4週振りの値下がり、ディーゼルは6週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、11月12日～11月18日に休止したトッパー能力は12.0万バレル/日で、前週に対して4.3万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は363.7万klと、前週に比べ12.1万kl増加。前年に対しては6.3万klの増加。トッパー稼働率は92.9%と前週に対して3.1ポイントの増加、前年に対しては8.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェットが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.4%減、ジェット/29.7%減、灯油/1.6%増、軽油/12.8%増、A重油/4.1%増、C重油/5.0%増。今週のC重油の輸入は6.7万kl(前週比1.2万kl増)。軽油の輸出は15.9万kl(前週比6.9万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではすべての油種で減少した。前年比でも、すべての油種で減少となった。

ガソリンの出荷は96.7万kl(対前週1.2%減)と2週振りで前週比、前年比で減少となり、3週連続で100万klを下回った。ジェット6.9万kl(対前週26.5%減)、灯油

20.0万kl(対前週48.7%減)、軽油65.2万kl(対前週4.7%減)、A重油20.8万kl(対前週11.2%減)、C重油21.9万kl(対前週5.5%減)。

(単位:千KL)

	今週 (11/12 ~ 11/18)	前週 (11/5 ~ 11/11)	前週比	
ガソリン	967	979	▼ -12	(-1%)
ジェット燃料	69	94	▼ -25	(-27%)
灯油	200	389	▼ -189	(-49%)
軽油	652	685	▼ -33	(-5%)
A重油	208	235	▼ -27	(-11%)
C重油	219	232	▼ -13	(-6%)
合計	2,315	2,614	▼ -299	(-11%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月18日時点の在庫は、ジェット、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、軽油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは169.9万kl、前週差5.8万kl増。前年に対しては10.9万kl多い。

灯油は266.2万kl、前週差14.3万kl増。前年に対しては26.9万kl多い。

軽油は138.9万kl、前週差2.8万kl増。前年に対しては4.6万kl少ない。

A重油は67.2万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては3.7万kl少ない。

C重油は198.1万kl、前週差3.8万kl減。前年に対しては9.9万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (11/18)	前週 (11/11)	前週比	
ガソリン	1,699	1,641	▲ 58	(4%)
ジェット燃料	1,036	1,052	▼ -16	(-2%)
灯油	2,662	2,519	▲ 143	(6%)
軽油	1,389	1,361	▲ 28	(2%)
A重油	672	667	▲ 5	(1%)
C重油	1,981	2,019	▼ -38	(-2%)
合計	9,439	9,259	▲ 180	(1.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月14日から11月20日までの原油コストは、原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン112～113円台で値上がり後弱含み、軽油58～59円台で値上がり後やや弱含み、灯油60～61円台で強含みで推移した。

海上スポット価格は、ガソリン113円台で出入りしつつ強含み、軽油60円台で横ばい、灯油59円台でほぼ横ばいで

推移した。

先物価格は、ガソリン111～112円台で出入りしつつやや軟化、軽油55円台で横ばい、灯油58～60円台で出入り激しくやや軟化し推移した。

元売の卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに0.5～1.0円の値上げだった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月14日から11月20日の原油コストは値下がりし、製品スポット市況は、陸上は全油種値上りしたが、海上はガソリン・軽油が値下がり、灯油が横ばい、先物はガソリン・灯油が値下がり、軽油が横ばいと大きく分かれた。

11月第4週(11月23日～11月29日、従来の表記「11月第5週」から変更致しました)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(11月14日～11月20日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.1円の値上がり、灯油は1.2円の値上がり、軽油は1.6円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.7円の値下がり、灯油は横ばい、軽油は0.1円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.7円の値下がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は横ばいだった。原油価格は値下がりし、為替は円高で、原油コストは値下がりだった。

11月第4週(従来の表記「11月第5週」から変更致しました)の大手元売の卸価格は、全社が、ガソリン・軽油・灯油ともに0.5円～1.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (11/14～11/20)	前週 (11/7～11/13)	前週比
レギュラー	59.8	58.7	▲ 1.1
灯油	60.9	59.7	▲ 1.2
軽油	59.3	57.7	▲ 1.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (11/14～11/20)	前週 (11/7～11/13)	前週比
レギュラー	58.5	59.2	▼ -0.7
灯油	59.3	59.9	▼ -0.6
軽油	55.0	55.0	→ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/14～11/20実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.1	▼ -0.7	▲ 0.2
灯油	▲ 1.2	▼ -0.6	▲ 0.3
軽油	▲ 1.6	→ 0.0	▲ 0.8
A重油	▲ 1.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月20日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.8円高の140.1円を付け本年最高値を7週連続で記録、軽油は同1.8円高の118.1円、灯油は同1.5円高の82.4円だった。ガソリンは10週連続の値上がり、軽油も10週連続の値上がり、灯油は10週連続(18ベース)の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは全47都道府県で、横ばい・値下がりはない。全国最安値は埼玉県の136.1円(同2.9円高)、次が高知県の136.4円(同0.1円高)、最高値は沖縄県の147.6円(同1.0円高)だった。最も値上がりしたのは、3.5円高の京都府(142.0円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、元売会社の卸価格は、各油種とも1.5～2.0円の値上げとなったが、10週連続でガソリ

ン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりした。元売会社の卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに0.5～1.0円の値下げとなった。次週(11月27日)のガソリンの小売価格は小幅な値下がり、転嫁不足が目立つ灯油の小売価格は横ばいが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/20)	前週 (11/13)	前週比	直近高値
レギュラー	140.1	138.3	▲ 1.8	08/8/4 185.1
灯油	82.4	80.9	▲ 1.5	08/8/11 132.1
軽油	118.1	116.3	▲ 1.8	08/8/4 167.4

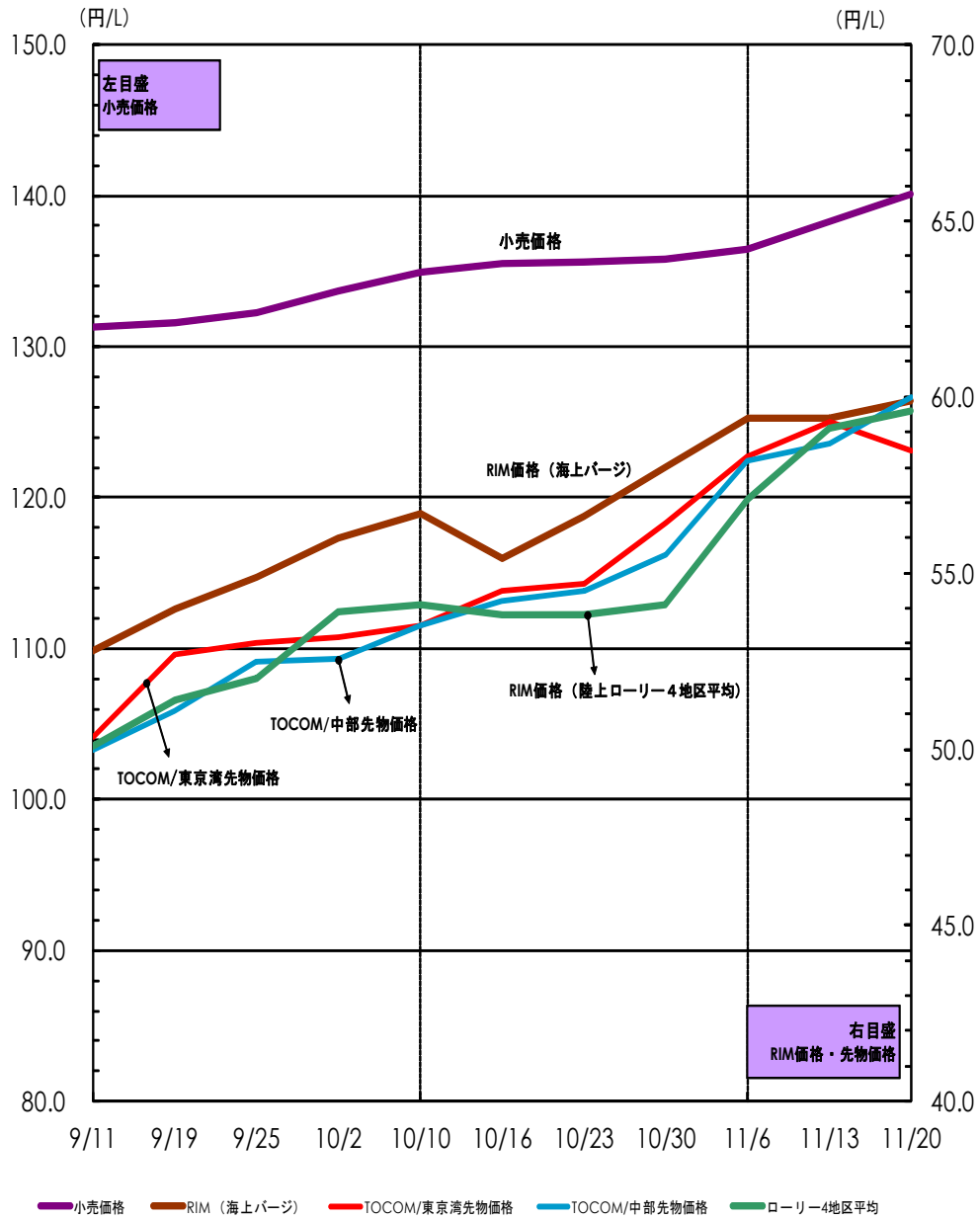
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/9/11 ~ 2017/11/20)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第33号)の公表は、12/1(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。